

井戸端会議

本頁では、生産者と消費者の双方の方々から御意見をいただくことにより、今後の食料・農業・農村について、いかに考えていくのか共通認識ができればと考えております。

「遊びにおいでよ わさびの郷へ」

静岡県伊豆市

飯田 哲司さん



わさび生産農家を継いで13年が経ちました。しかし、わさびを自らイベント等で販売するのは、平成7年に親の跡を継ぎ山葵(わさび)組合の青年部に入ってからでした。いざ、イベントに参加してみると、わさびが消費者にとって名前は知られていても、生産者が考えている程には、身近な食材ではないことを痛感させられました。

そこで、わさびをもっと消費者に身近に感じてもらうために、14年に個人のホームページを開設し、植物としての紹介や、食材としての利用法、さらには、自らの青年部活動なども併せて発信しました。さらにこのわさびの情報発信を土台に、夏休みのわさびの収穫体験教室参加の募集も行いました。体験教室に参加してくれた大人から子ども達、外国の方々とも毎回楽しく汗を流し、収穫したてのわさび入りのお弁当をわさび田の中で味わっています。参加者数は、昨年が5名(8歳~63歳)、一番多い年は14名

でした。外国人は、豪、英、米等から14名が会社単位での参加がありました。

参加者は、わさびの収穫体験は「非日常」、僕にはわさび田に消費者がいることが「非日常」です。この「非日常」がきっかけで、わさびの好きな所、嫌いな所などを話題に会話が弾みます。この取組により「わさびファン」が増えると確信していますので、今後も続けていきたいと考えています。

わさびファンを増やすために、例年3月下旬に「遊びにおいでよ わさびの花咲く わさびの郷へ」をテーマに萬城の滝キャンプ場(伊豆市地蔵堂)でわさびまつりを開催しています。皆さん、わさびが育つ自然の中で楽しい一日を一緒に過ごしてみませんか。

中伊豆わさびの情報HP「わさびだネっと」<http://izu.biz/wasabi/>

「食の安全・安心と地消地産」

長野県長野市

土屋 英夫さん



中国製冷凍餃子の中毒事件は、食料自給率の低さと食の安全に対する私たちの意識を改めて問い直す引き金になりました。また、世界から日本に輸入される食料原料や加工品の流通経路・加工工程の複雑さを知る機会となり、私自身も大きな衝撃を受け不安になりました。世界における食料争奪や、フードマイレージの話聞くにつけ、食料自給率の向上が喫緊の課題と思いますが、同時に食の安全・安心が最重要であると考えます。私たちの子どもや孫、将来の世代が、種類や豊富さだけではない食における本当の豊かさを知ることができるよう日本にできればと思います。その意味でも、消費者は農業の重要性を認識した上で、自分の住む地域での消費を伸ばす

ことで地元農業の生産を増やし、同時に食の安全・安心と豊かさが享受できるような地域づくりをしていくことが必要ではないでしょうか。いわゆる地消地産です。一朝一夕には難しいですが、地元で顔が見える生産者が作った旬の農作物を、学校給食など地元で活用するといった取り組みの拡大などから始められれば良いと思っています。